

## 日本ルワンダ学生会議の活動について

私たちは、普段、早稲田大学と大阪大学で、それぞれ月2回の頻度で勉強会を行なっています。ルワンダに関する書籍や論文をゼミ形式で発表したり、アフリカ歴史のドキュメンタリー映画を鑑賞するなどして、学びを深めています。また、不定期に学外の勉強会に参加したり、ルワンダを紹介するイベントを開催しています。今回は、2019年の間に参加、開催した様々なイベントをご紹介します。

### 2019年 主な活動歴

3月29日	国連開発計画(UNDP)主催の勉強会 「Afri-Converse #9 Strategies for Maternal and Child Health」参加
4月6日	アフリカ系学生団体の共同イベント「Africarnival in 京大」出展
4月8日	ルワンダ大使館より招待を受け、 国連大学での「ルワンダジェノサイド25周年追悼式典」参加
6月28日	東京在住ルワンダ人 Berwa Léandre 氏の話聞く会、開催
7月24日	NGO ピースボート主催の講演会 「ルワンダのいま～被害者と加害者の平和と和解の歩み～」傍聴
7月29日	アフリカ平和再建委員会(ARC)による「ルワンダ安全衛生講習会」出席
9月2日	渡航前合宿、実施
9月3日～15日	第18回本会議(ルワンダ渡航事業)開催
11月29日	「ルワンダ渡航報告会」開催(東京四ツ谷・JICA地球ひろばにて)
12月1日	東京在住アフリカ人と日本人の交流会「Japanese and African Meet Up」開催
1月10日	「ルワンダ料理を作る会」開催(目黒区菅刈住区センターにて)
2月4日～17日	日本ケニア学生会議による、ケニア人学生日本招致事業 補助・協力

#### 1. 「AFRI-CONVERSE #9」講演会・勉強会 於：国連大学

「AFRI-CONVERSE」は、国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所によって開催されたイベントです。日本国内でアフリカ事情に関心のある団体・個人間のネットワーキングと意見交換を深めることを目的としています。第9回の勉強会は「母子の健康を守るための戦略的取り組み」がテーマでした。講演会では、ケニアで母子手帳の普及を進めるプロジェクトや、味の素財団が開発した栄養剤の効用、FGM(女性器切除)問題などについて、5人の専門家から話を伺いました。アフリカの伝統的な風習を尊重しながらも、科学的根拠に基づく医療や薬をどう広められるか、非常に難しい問題だと感じました。



## 2. 「ジェノサイド 25 周年追悼式典」 於：国連大学

この式典は国連大学と在日本ルワンダ大使館が共催したものです。日本ルワンダ学生会議にも招待状が届き、代表と副代表が参加しました。ジェノサイド犠牲者への黙祷を捧げた他、ルワンダ大使や山田外務大臣政務官による、ルワンダの更なる安定化に向けた意思表示スピーチを拝聴しました。25年の月日が経過しても、内戦とジェノサイドの傷みは多くのルワンダ人の心に刻まれているのだと痛感しました。



## 3. 「AFRICARNIVAL」 合同新歓 於：京都大学

アフリカをフィールドに活動している NPO 法人や学生団体の合同新歓イベントを企画、運営しました。イベント当日には、アフリカ渡航経験者によるパネルディスカッションや、各団体のブース別説明会を実施しました。合計 70 人近くの学生や社会人が来場し、イベントは大いに盛り上がりました。



## 4. 東京在住ルワンダ人 Berwa Léandre 氏の話聞く会 於：青山学院大学

カーネギーメロン大学アフリカ校在学中で、日立製作所中央研究所（東京都国分寺市）でインターンシップに従事している Berwa Léandre 氏をミーティングにお呼びして話を伺いました。システムエンジニアとして、日本人社員と一緒にプログラミングの仕事をしていることや、日本での暮らし、ルワンダの内情について聞きました。ルワンダ人の方から直接話を聞き、激励を受けたことで、私たち学生会議のメンバーは、9月予定のルワンダ渡航事業に向けて、モチベーションがより一層高まりました。



## 5. NGO ピースポート主催の講演会「ルワンダのいま～被害者と加害者の平和と和解の歩み～」

於：ピースポートセンターとうきょう（東京新宿区）

ルワンダの歴史や紛争解決学について研究している専門家による講演を傍聴しました。近年、ルワンダと云うと、強いリーダーシップを発揮するカガメ大統領のもと、急速な経済発展を実現していると報道されがちですが、その陰では、大統領の独裁の問題や、都市部と農村の格差拡大など、様々な問題を抱えていることを学びました。ルワンダメディアが発信するデイリーニュースだけでなく、もっと書籍や論文を読んで、ルワンダの実情について理解を深めなければならないと思いました。



## 6. アフリカ平和再建委員会(ARC)による「ルワンダ安全衛生講習会」 於：早稲田大学

アフリカ平和再建委員会の事務局長を務め、私たち学生会議の活動も後援している、立教大学異文化コミュニケーション学部助教の小峯茂嗣先生による講習を受けました。日本と比べて、衛生状況が良くないルワンダにおいて、感染症や事故を避けるためにどのような対策を取れば良いのか学びました。



## 7. 渡航前合宿 於：東京都台東区

ルワンダ渡航事業を前に、東京、大阪、広島など全国から集まった学生会議メンバー同士の親交を深め、渡航に向けたマインドセットを行うべく、渡航前合宿を実施しました。渡航中のルールについて再度確認を行った他、浅草寺での安全祈願と、現地で披露予定のソーラン節の練習も実施しました。



## 8. 第18回本会議（ルワンダ渡航事業）

ルワンダ人学生との学術・文化交流を深める目的で、渡航事業「第18回本会議」を実施しました。日本人学生10人とルワンダ大学の学生25人が参加しました。事業期間中は、ルワンダ国内の様々な地域に足を運び、政治や経済、社会状況の“実態”を目の当たりにしました。虐殺記念館や国民和解・統一委員会の訪問では、内戦後、和解・融合の取り組みを戦略的に25年間継続した結果、平和の実現に成功したのだと学びました。経済面では、トヨタの中古車が街中で渋滞を引き起こし、多くの人がスマホを保有している現状に驚きました。ベンチャー企業ジップライン社の視察では、ドローンによる医薬品配送システムを見て、ICT技術が社会に浸透し始めている印象を強く受けました。一方、地方の教育現場や環境保護事業では、資金・リソース不足を慢性的に抱えている様子が窺えました。

学生会議では、日本の地理、自然災害、文化、教育から、日本人の性格や宗教観まで多岐にわたりプレゼンテーションを行いました。ルワンダ側からは、伝統文化や民俗の発表の他に、日本とルワンダの平和構築の歩みを比較考察したプレゼンがありました。参加者全員で、国際平和のあり方について議論を深め、戦争や民族差別の残酷さを学び、後世に伝えていくことの重要性を認識、共有しました。約10日間を通じて、日本とルワンダ双方の参加者は相手国への理解を大いに深め、固い友情と信頼関係を結ぶことが出来ました。



集合写真



幼稚園視察



学生会議

### 9. ルワンダ渡航報告会 於：JICA 地球ひろば（東京四ツ谷）

現地で実際に見聞きした現状を広く紹介すべく、公開イベントを開きました。渡航メンバーによるパネルディスカッションや、活動中の様子を撮影、編集したドキュメンタリー動画の放映を通じて、ルワンダの現状を紹介しました。また、ルワンダの特産品であるコーヒーを提供し、試飲してもらいました。当日は、アフリカ事情に興味がある高校生、大学生から社会人まで 20 人以上が来場し、議論は大いに盛り上がりました。



### 10. Japanese and African Meet Up 於：ブルーバオバブ アフリカ（東京港区、アフリカ料理店）

国際交流会、ブルーバオバブ アフリカとの共催で、東京在住アフリカ人と日本人の交流会を開催しました。当日はルワンダ人こそ来なかったものの、ギニア人やセネガル人の方を含め 15 人超が来場し、親交を深めました。ルワンダ渡航事業に関するプレゼンテーションでは、当団体の活動を紹介しました。



### 11. ルワンダ料理を作る会 於：目黒区菅刈住区センター

2020 年最初の公開イベントで、キャッサバの葉を煮込んだ「イソンベ」、トマトスープ「アガトゴ」などを試作しました。初めての試みにつき味付けの調整には苦心しましたが、ルワンダの味を楽しむことが出来ました。



### 12. ケニア人学生日本招致事業 補助・協力 於：東京都内 各所

日本ケニア学生会議による、ケニア人学生日本招致事業の実施に協力しました。ホームステイ受け入れや、シンポジウムの補助員ボランティアをしました。団体運営に関する情報交換もを行い、学生会議同士の友好関係も深まりました。

